

令和7年度第4回鎌倉市地域福祉計画推進委員会 議事録	
開催日時	令和8年(2026年)2月2日(月)午後2時~午後4時
開催場所	鎌倉市役所 2階 201会議室
出席者	川上 富雄(駒澤大学文学部社会学科教授) 小泉 裕子(鎌倉女子大学短期大学部教授) 田島 重雄(鎌倉市自治町内会総連合会副会長) 千代 美和子(鎌倉市民生委員児童委員協議会会長) 平田 はる奈(鎌倉市障害者支援協議会全体会委員) 田中 良一(鎌倉市社会福祉協議会常務理事) 山口 重久(公募市民) 脇田 美帆(公募市民) 近藤 壽子(公募市民) 鈴木 夏華(鎌倉市基幹相談支援センター)(臨時委員) 深見 勝弘(湘南きょうだいの会代表)(臨時委員) (欠席) 奴田 不二夫(みらいふる鎌倉相談役)
傍聴者	あり 1名
事務局	鷲尾 健康福祉部長 矢部 健康福祉部次長兼福祉総務課長 内藤 福祉総務課課長補佐 山田 福祉総務課福祉政策担当
会議次第	1 開会 2 議事 (1)【報告】これまでの振り返り (2)【協議】計画(案)について (3)【協議】計画の評価の針の検討 について (4)【協議】【協議】(説明のみ)令和6年度地域福祉計画進捗報告書(案)について (5)【報告】今後の進め方について (6)その他 3 閉会
配布資料	資料1 鎌倉市地域福祉計画(令和8年度(2026年度)~令和15年度(2033年度))策定スケジュール 資料2 意見公募および庁内意見照会の結果について 資料3-1 【協議資料】鎌倉市地域福祉計画(令和8年度(2026年度)~令和15年度(2033年度))(案) 資料3-2 コラムで取り上げる内容について 資料3-3 附属資料(1)用語解説で取り上げる用語について 資料4-1 評価シートの目的及び見方について 資料4-2 【目標1】評価シート(案) 資料4-3 【目標2】評価シート(案)

	<p>資料4-4 【目標3】評価シート（案）</p> <p>資料5-1 【協議資料】令和6年度地域福祉計画進捗報告書（案）</p> <p>資料5-2 意見書</p> <p>参考資料1 令和7年度第3回鎌倉市地域福祉計画推進委員会議事録</p> <p>参考資料2 令和7年度第3回鎌倉市地域福祉計画推進委員会意見リスト</p> <p>（机上配布）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度鎌倉市地域福祉計画推進委員会名簿 ・令和7年度第4回地域福祉計画推進委員会座席表
--	--

会議の結果及び主要な発言	
	1 開会
事務局 （内藤）	<p>事務局から事務連絡等</p> <p>本日はお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、令和7年度第4回鎌倉市地域福祉計画推進委員会を開会いたします。</p> <p>本日は、鎌倉市地域福祉計画推進委員会の委員総数12名中11名の出席です。このため本委員会条例施行規則第3条第2項により本委員会は成立することを最初にご報告させていただきます。なお、前回に引き続き、臨時委員2名も出席いただいております。</p> <p>本日の事務局を紹介いたします。皆様から向かって右側より部長の鷲尾です。次長の矢部です。担当の山田です。コンサルタント名豊の若松です。私は事務局の内藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、議事に入らせていただきます。</p> <p>議事進行につきましては、委員長にお願いをしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
川上委員長	<p>昨年度来取り組んでまいりました次期地域福祉計画も佳境に入ってきて、今日最終的に委員の皆さんにご確認いただき、来年度からこれで進めていかというご承認をいただく場となります。限られた時間でございますが、前回、前々回の委員会でご提案いただいた部分が計画の修正に反映されているかどうかご確認いただきながらご参加いただければと思います。</p> <p>議事に入る前に「会議の公開及び資料説明について」事務局の方からご説明をいただければと思います。</p>
事務局 （内藤）	<p>本日の会議の公開については、記録のために録音と撮影をさせていただき、委員の氏名、議事録、写真を後日、市のホームページに掲載する予定でございますので、ご了承ください。なお、内容については、掲載前に皆様にご確認をいただきます。</p>

	<p>また、鎌倉市審議会等に関する指針第7条の規定に基づき、事情がある場合を除き、会議は公開することとしておりますのでご了承ください。会議の開催を公表いたしましたところ、本日は委員会の傍聴に1名の方がお見えになっております。傍聴を認めたいと思いますが、委員の皆様にご意見をいただければと思います。</p>
川上委員長	傍聴1名の方をお認めいただけますでしょうか。
委員	<意見なし>
川上委員長	それでは、本日の傍聴者の入室を認めます。
	<傍聴者入室>
事務局 (内藤)	<p>それでは、本日の資料についての確認をさせていただきます。お手元に資料がない場合は挙手にてお知らせください。</p> <p>資料1 鎌倉市地域福祉計画（令和8年度（2026年度）～令和15年度（2033年度））策定スケジュール</p> <p>資料2 意見公募および庁内意見照会の結果について</p> <p>資料3-1 【協議資料】鎌倉市地域福祉計画（令和8年度（2026年度）～令和15年度（2033年度））（案）</p> <p>資料3-2 コラムで取り上げる内容について</p> <p>資料3-3 附属資料(1)用語解説で取り上げる用語について</p> <p>資料4-1 評価シートの目的及び見方について</p> <p>資料4-2 【目標1】評価シート（案）</p> <p>資料4-3 【目標2】評価シート（案）</p> <p>資料4-4 【目標3】評価シート（案）</p> <p>資料5-1 【協議資料】令和6年度地域福祉計画進捗報告書（案）</p> <p>資料5-2 意見書</p> <p>参考資料1 令和7年度第3回鎌倉市地域福祉計画推進委員会議事録</p> <p>参考資料2 令和7年度第3回鎌倉市地域福祉計画推進委員会意見リスト</p> <p>また、机上に名簿、席次を配布しております。 資料の説明は以上です。</p>
川上委員長	<p>それでは、次第に沿って、これまでの振り返り、計画案の主な変更点、計画評価の方針、令和6年度の進捗報告書（案）の総括ポイントの順番に議事を進めていきます。特に評価の方針については、丁寧にご意見を頂戴したいと思います。</p> <p>併せて、用語説明やコラムについても方向性へのコメントをいただければと思います。なお、議事(4)令和6年度の推進状況報告に関しては、時間の関係上説明はこの会議の場でさせていただきますが、ご意見は後ほど意見書として提出していただくという形にさせていただきます。</p> <p>それぞれの議題ごとに事務局の説明の後、意見交換させていただきますが、残りの時間を見ながらまとめさせていただく部分もあるかもしれませんが、ご容赦いただければと思います。</p>

	<p>それでは、次第の議事（１）【報告】これまでの振り返りについて、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局 （内藤）	<p>「これまでの振りかえり」をご報告します。</p> <p>まず、参考資料１、参考資料２をご覧ください。前回ご指摘いただいた主な点と対応状況です。</p> <p>全体に関わる内容として、委員の皆さまからのご助言を踏まえ、わかりやすい図版を新規作成・新規挿入しました。</p> <p>特に、地域福祉圏域の図は、抽象的な図にとどめず、地図ベースで圏域の重なりや違いを明示する構成に改めました。作図につきましては、近藤委員に大変ご尽力いただいております。ありがとうございます。</p> <p>文章表現についても、章構成や表現の統一、誤字脱字の修正等、意見一覧に沿って反映しています。</p> <p>個別の内容として、まず、再犯防止については「包括的かつ連携にもとづく協働」の視点を追記しました。空き家対策の記載は、現行の空き家等対策計画に福祉的な観点での掲載がなされていないため本計画への直接記載は困難とのことですが、新たな計画策定の予定が示されておりますので、次の計画に反映できるよう、庁内で委員のご意見を共有していきます。</p> <p>自治会・町内会については、アンケートやワークショップの結果を踏まえ、地域住民の地域参加が「一方的な負担」とならず「喜び」に転化するような仕組みづくりが必要であるとの趣旨が、計画の策定を通じて明確になったものと認識しています。関係課並びに市社協及び地区社協と連携しながら、今後の取組みの中で、委員のご意見を丁寧に届けてまいります。</p> <p>用語についてです。本日提示の用語集（資料３－３）に候補を列挙しています。まずお示しした掲載項目の妥当性について、後ほどご意見を願います。</p> <p>続いて、資料２をご覧ください。</p> <p>パブリックコメント及び庁内意見の結果です。</p> <p>パブコメからの意見はありませんでしたが、庁内から 70 件の意見が寄せられました。</p> <p>取組の位置づけの修正、計画趣旨の分かりにくさの解消、本来進めていく必要があるものの庁内で準備が不十分な部分、現在取り組んでいないものを推進する意義が分かりにくいといった部分などを中心に、ヒアリングを重ね、第２章のデータ／アンケート分析に厚みを持たせるなど、大幅に修正しています。特に、「目標３（４）全世代・多様な人の自立と居住を支える地域づくり」は、説明を加筆しました。</p> <p>細部の修正に関して説明は割愛させていただきます。</p> <p>これらを踏まえた修正後の計画（案）は、次の議事（２）でご説明します。説明は以上です。</p>
川上委員長	<p>様々な意見を踏まえて修正したとのことでしたが、次の議題にも関わってくるということになりますため、確認しておきたいことや発言したい</p>

	<p>ことがあればお願いします。</p> <p>パブコメの意見がなしだったということは残念ですが、前回の委員会での意見、庁内での各課からの意見等を整理のうえ、反映しているということです。</p>
委員	<意見なし>
川上委員長	<p>意見なしとの事ですので、次の議事に入らせていただきます。</p> <p>議事（２）計画案について、事務局からご説明をお願いします。</p>
事務局 （内藤）	<p>資料３－１「計画（案）」をご準備ください。</p> <p>前回の委員意見、12から1月にかけて行ったパブコメ・庁内意見・庁内連絡会の議論を反映しています。</p> <p>主なポイントをご説明いたします。</p> <p>まず、第２章を精緻化しています。データ・アンケートから読み取れる論点を枠囲みの箇条書きで明示し、「なぜ新たな取組が必要か」を可視化しました。19ページ以降から順にご覧ください。</p> <p>まず、19ページで、20年後の人口構造の変化に伴う要支援・要介護の市民の増加とそれに伴う生活支援ニーズの増加、支え手・受け手という関係を超えた支えあいの仕組みやそれが生きがいとなるような仕掛けの必要性を記載しています。</p> <p>21ページです。世帯構造の変化を踏まえた支え合いと体制強化の必要性を記載しています。</p> <p>25ページです。家族内ケアの負担の増大とケアラー支援の必要性を、記載しています。</p> <p>31ページです。若年層も「地域の問題を地域の人と話す場に、時間があれば、参加したい」意向があることを記載しています。</p> <p>33ページです。地域住民の交流の場自体には皆さん肯定的であるものの、そこへの個別の参加意欲は内容次第であり、場やサービスを設置・設定するだけでは交流の場にはならないこと、また、地区により、利用ニーズが異なることを記載しています。</p> <p>35ページです。30代に孤独感の強さが見られ、心理的負担の少ない安心できる場を求める傾向があることを記載しています。</p> <p>37ページです。地域の交流の場への参加の促進には、参加のハードルの低減と情報発信の工夫が必要であることを記載しています。</p> <p>40ページです。子どもや若者の地域とのつながりは「（チャレンジの場づくりなどの）大人主導の設定」ではなく、「本人たちの意見が反映される場づくり」が有効であることを、新たに明示しています。こちらクロスで見てまいりますと、若者以外の方からは、「若者にはチャレンジの場が必要で、それこそが若者の参加する機会だ」というご意見がある一方で、当事者である子どもや若者、10代20代の市民はそういう「チャレンジを前提とした場」はいらぬということ、非常に明確な意見のズレが出ていると感じております。</p> <p>続きまして、目標３（４）全世代・多様な人の自立と居住を支える地域</p>

	<p>づくりに関する説明を加筆しています。88～92 ページをご覧ください。</p> <p>89 ページで、3年後の見直しに向けた「市としてのバリアフリー推進の全体像」整理への期待を記載しています。</p> <p>90 ページです。再犯防止は包括的に取り組む必要がある旨を記載しています。</p> <p>92 ページです。権利擁護が必要な方に届く地域社会・情報提供の在り方に関する課題を、新たに明示しています。</p> <p>最後に、資料3-2・資料3-3にて、付属資料の用語解説と、本文に挿入予定のコラムについて、項目を提示しました。</p> <p>用語は、あいうえお順に項目ごとに整理しています。</p> <p>専門職・行政の用語感覚と、市民の感覚はズレがあるため、今回の用語集は「専門職には当たり前でも、市民には引っかかるかもしれない言葉」を基準に、幅を広く取って記載しています。</p> <p>市民委員や地域から選出された委員の皆さんには、ぜひ“市民の目線”で点検していただきたいです。ほかに追加すべき用語などございましたら、ご意見をお願いします。</p> <p>また、用語が増えすぎると読みづらくなるため、反対に必要ないと思うものは思い切って外してもよいのではと考えております。</p> <p>次に、コラムです。ページ数の制約上、ここにある項目すべては掲載できませんので、優先して扱うべきテーマの選定につき、ご意見を願います。説明は以上です。</p>
川上委員長	<p>資料3-1、2、3に沿い、計画(案)、コラム、用語説明について説明をいただきました。皆さんの方からご意見ご質問等があればお願いします。</p> <p>また、計画(案)の7ページに計画の位置づけが図で書いてあり、8ページに生活困窮者支援計画や再犯防止推進計画や成年後見制度利用促進計画なども包含する計画であるという説明があります。</p> <p>また52ページに第3章の計画の構成の中で3つの目標があり、その下にKGIやKPIが設定されており、53ページの右側の重層的支援体制整備計画の部分が生活困窮者の自立支援計画であるとか、再犯防止計画はこの部分であると網掛けで示してあり、更に、第4章の細かいところに触れているというように分かり易くい出来だと思えます。</p> <p>委員の皆さんからも評価やわからない部分などのご意見でも結構ですのでいただければと思います。</p>
山口委員	<p>計画(案)の第1章の1から5まであります。「5計画の基本的な考え方」が、1に来るべきではないかと思いますが、どうでしょうか。</p> <p>市民として見た時に、14ページの方が見やすいと思います。</p>
川上委員長	<p>13ページの第1章の「5計画の基本的な考え方」が、第1章の1に来るべきではないのか、というご意見ですね。</p> <p>一般的な行政計画の構成の仕方に合わせて、並びというのはできていると思いますが、どうでしょうか。</p>

事務局 (内藤)	地域福祉とは何かというところが、1番最初にあるといいのではないかと というご意見をいただいたものであり、計画の基本的な考え方よりも、 地域福祉の基本的な考え方に近い内容が、まずは、冒頭にある方がいい という意見と受け止めましたが、他の方はどうでしょうか。
川上委員長	確かに1と5はポイントではあります。計画の体裁の問題になるのでは ないかと思いますが、委員の皆さんいかがでしょうか。 特段意見が無ければ預らせていただいて、事務局と調整させていただ こうと思います。
事務局 (内藤)	今後、「地域福祉とは」をテーマにコラムを執筆し、挿入する予定でして、 冒頭にそういったものを持ってくるという対応も自治体によってはある とのことですので、分かり易い方がよろしいかと思います。
鈴木委員	用語説明の1番の「ICT」の解説は、ITのことではないかと思ったので すが、ここに通信とかコミュニケーションというのが加わるのではないかと 思うのですが、自分が分けている中ではそのように解釈していたので すが、いかがでしょうか。 それから、4番の「虐待」のところの解説ですが、「言葉や暴力等で傷つ けること」ではないかと思います。これだけを虐待と指すと解釈されな いようにと思います。 それから、7番の「ケアラー支援」のところで、解説は取組の解説では なくて、ケアラー支援の言葉の解説なので、ケアする人を支えるという 解説でいいのではないかと思います。
川上委員長	いただいたご意見については、事務局で整理するというところでよろしい でしょうか。
平田委員	鈴木委員と重なりますが、4番の「虐待」について、「虐待」というのは 傷つけることだけではなくて、ネグレクトみたいなものも含まれると思 います。これだけでは典型的な暴力だけを想像してしまうと思います。
川上委員長	能動的な虐待だけではなく、ネグレクトのような虐待もあるのではない かとの事でした。文字数の兼ね合いがあると思いますが、もっと言えば、 心理的虐待や経済的虐待などの4つの概念を紹介してもいいのではない かと思います。他にはいかがでしょうか。
小泉委員	用語説明の並べ方に違和感があります。 例えば、「ケアラー支援」があって、それにリンクした「ヤングケアラー」 が別で出てくるので、例えば「ソーシャルワーカー」などの職種なども 一緒に並べると受け手にとってはわかりやすいのではないのでしょうか。 あいうえお順だと、似ている用語が視覚的に分かりづらくなってしま うのがもったいないと思います。
川上委員長	説明の後に※をつけて、関連する用語を記載するといいと思います。 あいうえお順にするならば、例えば、9番の「5行政地域」と31番の「地 区社会福祉協議会」は、どちらも地区割りの話ですが、それぞれ離れて いるので、解説のところに※を追加して、「地区社協」の方に「5行政地 域」を挿入するなど、そのような工夫を入れてもらうといいと思います。

	カテゴリーで括ると、どれを括ればいいのか難しくなってくると思いますので、並びはあいうえお順にして、関連性がわかるように工夫してください。
事務局 (内藤)	承知いたしました。
川上委員長	他にはいかがでしょうか。
近藤委員	<p>6番の「ケアラー」についてですが、福祉の分野の方ですと、「ケアラー」というものが容易に理解できると思いますが、一般の方だと、日本語に変換されていないので、わかりにくいと思います。</p> <p>解説のところで、「無償でケアを行っている方のこと」と書いてあり、ここで「ケア」という言葉を使ってしまっているので、用語解説としてはもう少し突っ込んだ方がいいと思います。</p> <p>例えば、「ケアラー」という言葉を日本語にすると「家族内無償介助者」になるのかと個人的には思いますが、毎回「家族内無償介助者」と使うのは大変なので、「ケアラー」という言葉を使っているのであれば分かると思います。「ケア」についても意味を精査した方がいいと思います。福祉でもないし、「世話や介助の対応」になるのかなと思いますが、この辺りは福祉の方のご意見をお聞きしたいと思います。</p> <p>それから、8番の解説の文章がよくわかりません。言い換えようと考えてみましたが、言い換えることができなかったので、再検討していただきたいと思います。</p> <p>16番では「地域住民の方々」となっていますが、17番では「近所の人達」となっているので、「地域住民が」もしくは「近隣住民が」にしてもいいのではないかと思います。むやみに「の方々」という言葉は使わなくていいと思います。</p> <p>それから、33番の「8050問題」の解説ですが、冒頭の「中高年のひきこもり状態にあるこどもが」とありますが、よく読めばわかりますが、最初よくわからなかったもので、例えば「高齢の親に対して、中高年のひきこもり状態にあるこどもが」と文章を変えると、少しわかりやすくなると思います。</p> <p>それから、35番の「防犯」のところで、読み方が「はんざい」になっています。</p> <p>37番の「福祉タクシー」のところで、タクシーサービスの説明の後に、「移動支援の充実を図る施策の一環である」と書いてありますが、これは鎌倉市のことでしょうか。それとも移動支援の充実を図る施策の一環が福祉タクシーなのでしょうか。</p> <p>それから、42番にも「社会福祉の増進に努めるの方々」とありますが、これは持ち帰って協議していただければと思いますが、丁寧に言おうとして「の方々」としていると思いますが、逆に必要ないのではないかと思います。</p> <p>それから、43番の「ヤングケアラー」のところで、「18歳未満のこども</p>

	とこと」と書いてありますが、これは「こどものこと」でしょうか。最後に解説の出典は記載しなくてもいいのでしょうか。解説によって、詳しく書いてあるところと、少しだけ触れて書いてあるところがあるので、出典が必要か否か協議いただきたく思います。
小泉委員	用語解説における出典に関してですが、該当箇所の解説は中学生にも分かるようにまとめてあるため、出典が必要となる性質のものではないと認識しています。ただし、正確な説明が求められる場合と、参照程度のものかどうかで、出典の有無は変わってくると考えられます。
千代委員	同じ語を使っても、国語辞典にある一般的な意味と、福祉分野で専門的に使われる意味（例：「ケア」）とでは解釈が異なる場合があるようなお話があったかと思しますので、用語の扱いについては「辞書的意味」と「福祉用語としての意味」のどちらの視点で記述しているかを明確にした方がよいと思いました。
川上委員長	分かりやすさ、分かりにくさのバランスが難しく感じますが、中学生レベルでもしっかりと意味が伝わるということで、検討させていただいてもよろしいでしょうか。 確かに6番の「ケアラー」は、和訳すると、おそらく「介護者」とか「介助者」という意味しか出てきません。意図する「ケアラー」はまさに「家族内無償介助者」とか「世話人」という意味を込めて使っているので、そのようなニュアンスをこの解説に入れ込まないといけないと思います。
千代委員	「ケア」という言葉自体も、福祉で使うときには、意味合いが限られるところがありますので、「ケア」という言葉も用語解説に入れてもいいと思います。
平田委員	「ヤングケアラー」とか「ケアラー」というのは、日本ケアラー連盟で、シンプルな定義がありますので、これを使うといいと思います。そこでも「ケア」という言葉が使われていて、ただ例として「介護」「看病」「療育」「世話」みたいなことが書いてあるので、そこから引用するのが有りならば「ケアラー」に関してはそれでいいと思います。
事務局 (内藤)	「ケアラー」と「共生社会」については、条例で定義を作っていますので、そちらを反映させていただきたく思います。
脇田委員	28番の「ダブルケア」は、子育てと介護に限定されないと思います。
田島委員	42番の「民生委員・児童委員」のところで、民生委員よりも児童委員の役割の方が多いですが、民生委員は基本的に高齢者の見守りなどの活動が多いです。
千代委員	「民生委員・児童委員」の解説で、中黒の表記は県の民児協の言い方ですが、鎌倉市では中黒なしの表記が多いので、取るのかどうか確認いただきたく思います。
深見委員	資料3-1になりますが、第4章を見ると、右上の方に目標1のことを言っているとか、目標2のことを言っているとかありますが、他の章にはないので、例えば上に表示するのも有りだと思いますし、端にタグの

	ように表示してもいいと思いますし、今どこを開いているのかわかるようにすると思います。
事務局 (内藤)	各章にはインデックスをつけさせていただきます。
鈴木委員	計画の方に用語集に解説があるというマークはついていないのでしょうか。わからない言葉を随時こちらで探すのは大変なので、本文の方に、解説の有無がわかると思います。
川上委員長	アスタリスクをつけて、それがあものは用語説明があるとわかるようにしておけばいいと思います。
山口委員	この計画書の想定する読者は誰になるのでしょうか。
川上委員長	市役所の職員や社協の人や事業所の方、地域で担われている活動家の皆さんも読者と想定しています。
山口委員	反対をしているわけではありませんが、用語集は必要でしょうか。受け取る方によって違うのかなと思います。用語集を見て、計画書をご覧になったことがありますか。計画書の中身の方が大事ではないかと思えます。
川上委員長	用語集を付けた方がよいと考えます。実際に目を通すかどうかは別として、中学生以上が読むことを想定すると、専門用語がそのままあると理解が難しくなる場合があります。たとえば「SNS」の説明は中学生には不要かもしれませんが、高齢の方には説明が必要な場合があります。また、国の施策として「重層型支援整備事業」が進められていることを説明して住民の期待を高めても、「重層」とは何かが分からなければ伝わりにくいです。
千代委員	本計画書は整理されており読みやすいと感じます。 中学校や高校で一部を教材として使ったり、調べ学習に活用されたりすることで、市がどのような施策を進めているかを理解してもらえることは重要だと思います。 また、一般市民が本計画を手にとった際に、文字ばかりだと読み進めにくいので、まず身近に感じられる部分からでも目を通してもらう工夫が必要です。そうした入り口が増えれば、より多くの市民が地域福祉に関わるきっかけになると考えます。これまでは手に取られてこなかった層にも届くよう、市としても情報発信の工夫を進めるべきです。 その意味で、用語解説があれば「なんとなく読める」状態になり、用語集の設置は有用だと思います。
脇田委員	本題と離れてしまうかもしれませんが、藤沢市では地域福祉活動計画の概要版みたいなものがありまして、そういう形で入り口を低くして、親しみやすくしていただくと手に取りやすくなるのではないかと思います。
事務局 (矢部)	今日お示しができませんが、概要版については作成いたします。完成しましたら、委員の皆様にご覧いただきたいと思えます。
川上委員長	計画書が完成し、計画書を市民に届けることは難しいと思えますので、

	概要版で広く理解いただけるようにということになると思います。
千代委員	市社協で作っている計画のダイジェスト版というのがありまして、そのようにデザインが鮮やかなものであると手に取りやすいと思います。
川上委員長	おそらくですが、概要版も第1章の13、14ページあたり、第3章の計画の全体構成あたりが中心となった表裏のようなものになると思います。そちらを中心に広げていければよいのではないのでしょうか。
田島委員	この計画書は、市のホームページに載っているのでしょうか。
事務局 (矢部)	市のホームページに載せて、皆さんが閲覧できるようにと考えております。
田島委員	言葉で検索すると、そこに飛ぶような形になっているのでしょうか。これだけの枚数を全部見るのは大変だと思いますので、自分が知りたい部分に飛べるような形にしていただければ、ホームページとしては読みやすいと思います。
事務局 (矢部)	一般的なホームページとして、例えば、「民生委員」と検索すれば、その部分に飛ぶような形になっておりますので、そこは大丈夫かと思います。
川上委員長	PDFで掲載されると思うので、ホームページ上でその検索は難しいと思います。ホームページの技術的な部分ですので、事務局で検討いただければと思います。
平田委員	3ページに地域福祉計画における横断的視点をアイコンで説明していますが、「横断的視点」があることで、何がどのように理解すればいいのでしょうか。
事務局 (内藤)	どこかの目標に位置づけるのではなく、満遍なく必要な視点ということですが、そのような説明をしていないので、横断的視点がなぜ必要なのかの記載がないということだと思います。 議論の背景としては、情報提供や人材育成を目標2の(1)のどこかに置けばそれでいいという考えだと、全体的に進まないということ、どの目標においても必要なものとして取り扱い、施策の方向性に落とさず、全体に行き渡せるのがよいのでは、という議論から始まりました。 そのような趣旨の説明がないということだと思いますので、(4)の直下に、なぜ横断的視点の必要性を記載するという事でしょうか。
川上委員長	まとめると、(4)の横断的視点に、情報提供と人材育成はこの視点を意識して取り組む事業という事で少し理由を記載できればと思います。 以前の計画では、情報提供と人材育成が施策の柱としてありました。それを無くして、この事業を展開する上で、人材育成は当然だとか、ボランティアの育成や福祉教育の授業を行うことが、将来の人材確保につながるということを広く行き渡せているとの事なので、記載の仕方は工夫が必要です。
千代委員	情報提供のところの文章について、文言の羅列が多いと思います。 「参加促進、複雑化・複合化した課題」など、羅列ばかりだと何の文章だったのかが分からなくなってしまいます。表現の仕方がもう少しわかりやすいといいと思います。

川上委員長	<p>その他ご意見は大丈夫でしょうか。</p> <p>私の意見としては、16 ページにある「5つの行政区域」と、「9つの地区社協（ささえあい福祉プランで示されている区分）」、「包括支援センターの10の管轄」「民生委員児童委員の管轄」「小学校の学区」が一致しておらず、それぞれ異なる線引きで運用されていると感じます。</p> <p>市社協のささえあい福祉プランには詳細が記載されているため、該当の区分を本計画書にも掲載し、各区分の違いが一目で分かる一覧表があるとよいと考えます。</p> <p>社会福祉協議会は地域福祉を進める際に9つの地区社協を基礎にすることが多いため、住民や関係者の実務に即した表記にすることを検討してください。</p>
事務局 (内藤)	趣旨としては、どのようなことを伝えるために載せるのでしょうか。
川上委員長	特に、市社協の9地区との整合が伝えられればよいと思います。
事務局 (内藤)	<p>14 ページの地域福祉圏域図に圏域の考え方を示していますが、これ以上他の圏域を含めると分かりづらさが出てきてしまうと思っています。</p> <p>また、16 ページには各地域の特性を書き添えて、ささえあい福祉プランの方には特性が書かれていないかと思っていますので、構成が異なります。</p>
川上委員長	<p>圏域の考え方として、分かりにくくなるようであれば、やめましょう。</p> <p>委員のみなさんからいただいたご意見は、事務局と整理のうえ、対応していければと思います。それでは、次に進めさせていただきます。</p> <p>それでは、議事の(3)、計画の評価のあり方について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (内藤)	<p>資料4をご覧ください。</p> <p>資料4-2、4-3、4-4、本評価シートは、計画に紐づく取組が実施されているか否かの確認にとどまらず、地域や関係機関の動き・関係性の変化を捉え、次年度の取組における改善を確実に進めるための進捗管理と評価のツールです。計画書の第5章「計画評価と推進体制」で掲げる、多主体の参画やプロセスの重視といった考え方を、年次の運用に落とし込むために案として作成しています。</p> <p>なお、シートの様式を資料編に掲載することを検討しておりますが、チェックボックスの具体的な文言は、初年度の運用にあたっての調整を見込み、白紙として印刷する可能性があります。</p> <p>各評価シートの構成です。目標ごとに、「取組と目標を結ぶビジョン」を起点に、段階的評価の視点で、「現在地」「見えている変化と課題」「次に目指す段階」「前年度の課題へのアプローチ」を関係者間で共有できるよう設計しています。</p> <p>目標2や目標3では、世帯単位の包括的支援や制度の狭間への対応が求められますが、担当者レベルで縦割りに陥りやすいため、評価の視点を、取組の点検／整理／改善に組み込み、目標達成につなげます。</p> <p>評価の方法です。評価シートは、取組の成熟度や進度の段階を、チェッ</p>

	<p>クボックスで段階的に確認するツールです。年度を追うごとにチェックが徐々に増えていくことを想定しています。事業の実施の有無のみならず、関係者の動き・連携の深まり・変化の度合いに着目して現在地を可視化します。</p> <p>複数の評価参画者として、市・市社協・福祉事業所、地域団体・ボランティア、地域の担い手などを想定しておりますが、各参画者が自己点検を統合する過程では、評価の内容にズレが顕在化することが想定されます。ズレには大きく2種類あります。</p> <p>1つが、認識のズレです。同じ事象を見ても評価が異なるケースです。この場合、そのズレを“論点”として見える化し、ずれている状況の背景や事象の捉え方を共有しながら、合意できる「次の一步」に落とし込むことで、目標の捉え方と進め方の足並みを揃える契機とします。</p> <p>2つ目が、本モデルのチェックボックスの内容が実態とあっていないことによるズレです。このたび、目標の達成に至る状況を事前に共有するために、階段上に段階を設計していますが、その内容が目標の達成につながる記述になっていないケースも想定されます。この場合はチェックボックスの文言や段階名・到達基準そのものを見直します。初年度はここに時間を要する可能性があるため、急がず実態に合わせて表現を改め、その経過（改訂理由・変更点）を「評価票運用の改善」として進捗報告に記載し、委員会へ提出します。重要なのは、“評価票の修正作業そのもの”も進捗である、という考え方です。</p> <p>期待する効果としては、多様な複数の主体で同じ目標を確認しながら取組を進めることによる、成熟度や連携の広がり可視化、年度の振り返りを踏まえた翌年度取組までの一貫性の確保、そして評価の過程自体を現場の対話・関係構築の機会とすること、などが挙げられます。</p> <p>運用についてです。初年度は使い方の検討・合意形成に時間を要する可能性があるため、(ア)ズレの可視化とすり合わせ、(イ)段階文言の改訂、(ウ)翌年度のスモールステップ設定 の3点を中心に運点検し、2年目以降または3年後の見直し時期に円滑な本格運用へ移行できるよう、いくつかのパターンを想定し、検討してまいります。</p> <p>なお、目標ごとに観点が異なるため、個別様式は資料4-2（目標1）、4-3（目標2）、4-4（目標3）をご参照ください。</p> <p>説明は以上です。</p>
川上委員長	<p>計画の評価については難しい部分があり、例えば、「地域で安心して暮らし、活動できるまちづくり」と目標に掲げられていて、その下にKGI（重要目標達成指標）、更には年次の積み上げとして、初年度30件、次年度50件、3年度は60件というようなKPI（途中経過を測る業績指標）を設定して事業を進めていくわけですが、そのKGI（重要目標達成指標）やKPI（途中経過を測る業績指標）が目標に還元されているのかという評価はとても難しいところがあります。</p> <p>少しでも、底上げ感がわかるように進捗の段階を関わった人がチェックを入れていくのですが、それがずれていても、なぜずれているのかを分</p>

	<p>析することで、また検証していくことができるので、1つの取組として、今日は案として出させていただきます。</p> <p>計画の段階ではこのチェックボックスを空白で出すことも考えられますし、あくまでも1年目の評価をした段階でブラッシュアップしていくことも考えられるので、ご相談という形で、今回初めて評価シートを提案させていただきます。</p> <p>おそらく、1-1-2-1の地区社協への支援となると、福祉総務課と鎌倉市社会福祉協議会と各地区の地区社協の関係者にもこの評価をいただくことになるかもしれません。</p>
事務局 (内藤)	シートへの記載は、施策の方向性単位かと思えます。施策単位の12個で評価をしていくことになります。
川上委員長	目標1は市社協が関連する事業が多いので、評価参画者の中に市社協が入っています。しかし、目標2や目標3では、市社協ではなく社会福祉法人等が入っていて、少しずつ進捗の段階の書き方も変わってきます。取り組む際にこの評価の項目を意識しながら、やっていくことも大切になると思えます。
山口委員	評価シートのアウトプットのイメージはどうしたらいいでしょうか。例えば、点数方式で評価していくものでしょうか。
事務局 (内藤)	<p>例えば、目標1を例にしますと、目標1の(1)、(2)、(3)とそれぞれに評価シートが1枚ずつ出来上がって、報告させていただきます。</p> <p>評価シート1枚にまとめるまでに市の担当課、市社協、地域の団体もあるというところで、関わる方達に表現いただく機会を設けたいと考えています。</p> <p>それがワークショップの場合なのか、別途、そういったことのとりまとめに関連する業務を行う団体等に依頼をして締め切りを設けて書いていただくのかというのはありますが、1年間かけて作成していきます。</p> <p>目標1の(1)「誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けた支援」では、「緩やかな見守り活動の推進」や「地域福祉活動への支援」や「コミュニティワークの推進」など⑥まであるのですが、①②レベルで全部チェックするのは大変なので、(1)の中身の①から⑥のいずれか書けるものについて、実施の状況を書いていただくことを想定しています。</p> <p>それぞれが連動するイメージですので、当初は、理解の醸成は進んでいるけれども、初めての人が気軽に来られる場の充実はまだ進んでいないみたいな状況の場合は、当初は片方にのみチェックが付き、8年間かけて全てのチェックが埋まっていくように皆で取り組んでいく、という流れがうまく作れますと、目標が達成したことになるのではないかとこのところでは、</p> <p>チェックを記入するにも、おそらく、段階的に進んでいる状況を把握し、その内容に応じてチェックを記入していくということになるかと思えますので、なぜチェックをしたかということも含めて、実施の状況や事例みたいなものを文章で表現していただき、それが様々な評価</p>

	<p>参画者から集まってきた後、全体の整理を事務局で行い、最終的なチェックの記入状況含め、推進委員の皆さんにその概要をご説明するということかなと考えております。</p>
山口委員	<p>いずれにしても、数字よりも文章表現をしていくということですね。また、次のステップとして、どのようなフィードバックを想定しているのか、教えてください。</p>
事務局 (内藤)	<p>この評価シートを作成した背景としては、何をしたら目標が達成できるのかというところが、なかなか共通化できないというところがありました。同じ目標に向かって様々な方が取り組んでいく中で、方向性がぶれてしまい、目標に対して成果が出ないことが往々にしてあります。それは誰のせいでもなく、色んな関係者が関わって地域で取り組んでいく中で、適宜、基本に戻って確認をした方が方向性がぶれなくて良いのではと考えまして、まずは、同じ目標を持って同じシートに記載していこうという趣旨です。</p> <p>評価の場面では、物事が進んでいるのかいないのかを印象論で話して、現場でハレーションが起きることがありますが、そのハレーションを避けた結果、何をもち進んでいないのか、進んでいるのかを話す機会がなくなり、結果、個別に批判をし合ってしまうこともあります。それが地域活動にとっては有益ではないと思われるため、お互いに客観的にチェックし合いながら対話をする中で、ある程度認識がすり合っていくというプロセスを、評価の中で新たに設けることが大事ではないかと思っています。</p> <p>以上、進捗の段階のチェックが増えていくと、目標達成に近づくのではないかと期待したシートとなりますが、あくまでも案ですので、議論をいただきたいところです。</p>
川上委員長	<p>やったことがない取組をやってみようということで、我々も模索しながら評価のやり方をやってみてはどうだろうかということです。</p> <p>1年目の評価をまずやってみて、このチェックボックスを変更した方がよいということであれば、再考しなければならないということも含めてのご提案になります。</p>
近藤委員	<p>最初にこれを見た時に、理解することが難しかったのですが、今の説明で状況がわかりました。感じた事を伝えさせていただきますが、この評価シートに「当年度に取り組みたい事」と書いてありますが、つまり物事を始める最初に書くことと思います。</p> <p>その後の「進捗の段階」という項目は、1年後に取り組んだことを振り返ってどうだったかを記入するものですね。</p> <p>つまり1年間保管して検討して確認するという認識だと思いますが、この書き方だと1年間、間が空くということがわかりにくいと思います。それから、評価の視点のチェックボックスに関して、チェックボックスを3つ作るのでしょうか。</p> <p>「理解共感の醸成が進む」とありますが、チェックをする人によっては、</p>

	<p>達成度が異なると思いますので、判断基準が変わってくると思います。チェックボックスが3つあったとして、少し取り組んだからということで、1年目は1個、2年目は2個、5年経ったら全部やりきったということで、3個にするというのはどうでしょうか。</p> <p>最後に、先ほど年度末に評価をまとめるとおっしゃいましたが、その後、市の方でまとめられた場合、いつ発表されるのでしょうか。</p> <p>来年度に向けて活用されるタイミングで出されるのでしょうか。</p>
事務局 (内藤)	<p>最初のご意見は、評価を「0か100か」の二択とするのではなく、インジケータのように段階的にチェックできる形にしたほうがよい、というものだったかと思います。</p> <p>後半のご意見は、進捗状況の確認についてかと思いますが、前年度分を振り返り整理した上で関係者に報告する形としておりますので、来年度分の報告は再来年度に行う予定です。</p>
近藤委員	<p>1年間隔が空くということでしょうか。</p>
事務局 (矢部)	<p>そのとおりです。</p> <p>本日は、現行計画の令和6年度推進状況報告もさせていただきますが、スケジュールとしては遅いタイミングでして、評価報告は基本的に翌年の夏もしくは秋に報告をさせていただいて、更にその翌年の予算とか新しい施策に反映できるようなサイクルを考えております。</p> <p>基本的にはその年度の前半で、昨年度中の評価をした上で委員会に諮らせていただき、ご助言をいただいた後に、更に予算に反映していくとか、方向性を変えていくというサイクルを事務局としては考えております。</p> <p>それが今年度は計画改定と重なってしまったため、報告時期が遅れてしまっているという事になります。</p>
川上委員長	<p>例年8月頃に、前年度の評価に関する委員会があります。</p> <p>それでも、年度が半分終わっている状態にはなっています。</p> <p>該当年度には何も反映できませんが、1年後の施策に対してご意見があれば反映できるということになります。</p>
近藤委員	<p>そうしますと、このシートを記入するのは、現場の方の労力がかかり、大変だと思いますが、現場の方にこのデータは共有できるのでしょうか。</p>
川上委員長	<p>例えば、ネット環境を使用しながらであればできれば、集計が容易であり、修正も効くと思いますが、手作業で取りまとめて次の年度の委員会で報告していると、どうしてもずれ込んでしまうということです。</p>
近藤委員	<p>最初の文章を読むとすごく良いことが書いてあるのですが、1番大事な事は、現場の方同士が、今こうなっていると、こっこのグループはこうなっていると、じゃあこうしてみようとかいう連携を取るためのツールなのかと思いますが、どちらかという報告書的で、皆さんにフィードバックされて活用されるという感じで、私のイメージとは違いました。</p> <p>最初の文章は非常に前向きな内容ですが、私が考えている点は、現場の方同士が「今こうなっている」「こちらのグループはこういう状況だ」「で</p>

	<p>はこうしてみよう」といった連携を取るためのツールの要素が大事だという事です。現状の説明は、どちらかという報告書的で、皆さんにフィードバックされ活用されるイメージが強く、私の想定していた「情報共有・協議できるツール」というイメージとは異なっていました。</p>
事務局 (内藤)	<p>新たな評価の活用はしていきたいのですが、具体的なスケジュール感については未確定なため、やってみないとわからないところがあります。</p>
川上委員長	<p>例えば、年度末（3月末）に担当者が評価を付けても、紙ベースで回収してから集計表にまとめ、委員会に諮るという手順を踏むうちに、次の年度の作業がどんどん進んでしまいます。</p> <p>そのため、キントーン等のように現場で情報を共有しながら即時に集計・分析できるツールを導入できると望ましいです。</p> <p>委員会への正式な報告は所定どおり行いつつ、担当者レベルではすぐに状況を認識でき、評価が瞬時に把握できる運用が理想です。</p>
千代委員	<p>委員長のご意見はまさにその通りで、市社協の評価と地域の団体が全く違う評価をした時に、それが見えないと全く意味がないと思います。</p> <p>私は紙ではなくネット上かと思いましたが、分析まですぐ出なくても、情報が共有できる環境で、お互いに見ることができるといいと思います。</p> <p>先ほど評価シートの進捗段階で3段階の話がありましたが、5段階でもいいので、市社協の評価や地域団体の評価が瞬時に見えるように、内容もアップデートしていかないといけないと思います。</p> <p>初年度は試行的な運用がやむを得ない面はありますが、6年後・8年後まで分析して活用するのであれば、まずはタイムリーに実施できる運用方法を検討する必要があります。</p>
川上委員長	<p>また、Google フォーム等などを使えば、結果はExcelなどで出てくると思います。</p>
千代委員	<p>チェックだけなら尚更ですね。</p> <p>できれば第1報が出て、それを分析したら第2報が出るみたいな形になっていくと、いいかと思えます。</p>
川上委員長	<p>評価シートの構成に戻りますが、提案した我々の中では、チェック項目が進捗の段階の深さを表しているわけです。チェック項目が多く付けば、できているというものでしたが、このチェックボックスの中に3段階や5段階で、何%出来ていると思えばE評価というように、A～E評価を付けるというご提案ですが、いかがでしょうか。</p>
事務局 (矢部)	<p>現状、進捗が「0か100か」といった二択になっているため、進捗の段階を明示した方が望ましいです。</p> <p>段階数を3段階にするか5段階にするかは検討課題としつつ、いずれにしても進捗の度合いが分かる形式とする方向で検討したいと思います。</p> <p>最終的には本評価シートを参考に進捗の判定を行うことを想定しています。</p> <p>また、事前にウェブ上で情報を収集し、その内容を踏まえてヒアリングを行うといった運用も検討し、評価項目や運用方法については本シート</p>

	に固執せず、必要に応じて見直していきたいと考えます。 併せて、段階が可視化されることに加え、可能な限り迅速に状況を把握できる仕組みの導入についても検討したいと思います。
川上委員長	来年度から次期計画が始まりますが、4月の段階で関係部署、関係団体に当年度に取り組みたいことを記入してくださいと配るわけですね。
事務局 (内藤)	まず、評価参画者を選定し、ご説明をしてからになります。 「関係・ネットワークの更新が進む」の辺りに差し掛かれば、一緒にできるけれども、もしかしたらそれ自体も集まる場が少なかったり、評価参画者が定まらなかったりというのが、地域の課題としてあるとすると、そこから少しずつ取り組んでいくことになると思います。
田島委員	評価参画者はどのような人を想定しているのでしょうか。 例えば、市社協の会長や役員なのか、現実的にどのくらいの人数を想定しているのでしょうか。
事務局 (内藤)	今日はそれをご相談させていただきたいと思っていました。 田島委員や千代委員であれば、どのような方であれば評価参画者として適任かなどあればぜひご意見をいただきたいと思います。
田島委員	ある程度計画を理解している人でないとできないと思います。 そうすると、地区社協の三役とか役員レベルの方で、末端の人だとわからないと思います。
田中委員	評価参画者としてこのシートを見ると、もっと具体的に書いて欲しいと思います。例えば目標1が書いてあり、施策がプルダウンで選択、その下もプルダウンで選択と書いてあるのは、どこからプルダウンするのでしょうか。
事務局 (内藤)	取り組むべき施策の方向性になります。
田中委員	目標1だと(1)~(3)のどれかをプルダウンするということですか。
事務局 (内藤)	それぞれに対して、評価シートを作成するという整理をしていました。
田中委員	次のビジョンは、56ページから関連するものを選択するということですね。その次の取組名称というのは、プルダウンではなく、自分たちで記入するということですか。
事務局 (内藤)	評価参画者によって取組名称が変わると思いますので、市社協だと(1)の中で市社協がやっている取組を書いていただきます。
田中委員	その下の当年度に取り組みたいことというのは、市社協でやっている取組の内容を具体的に書くということですか。 また、目標1~3までの中で、市社協がやっている地域福祉計画に関わる取組ごとに評価シートを書くということですか。
事務局 (内藤)	市社協の場合は、目標1に関するシートと、委託事業に関するものになると考えております。
川上委員長	取組名称が計画書の本編で言うと、1-1-1-1のような事業の項目かと思っていましたが、そうすると膨大な数になってしまうのでという

	ことですね。
田中委員	取組名称のレベルがどのレベルのものなのかがよくわかりません。 取組は細かいまで様々あるかと思います。
川上委員長	例えば、市社協でも、目標1(1)誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けた支援の中でも、事業が分散しているということですね。 地区社協やボランティアセンター、福祉教育の話もあります。
事務局 (矢部)	本評価の目的は、市が掲げる目標に基づいて進捗を把握することであり、市社協が独自に自らを評価するためのものではありません。 市社協は、市の目標に連動して活動していますが、たとえば地区の自主的な活動が「理解・共感の醸成」に寄与しており、その結果、市の目標に照らして評価の段階が進んでいることがあると考えられます。 各団体が実施している活動や認識している鎌倉市の現状を取りまとめ、これを市が分析することで、環境の改善や進捗を把握していくという運用を想定しています。 その意味で、「取組名称」という表現は誤解を招くおそれがあり、趣旨にそぐわないのではないかと考えるので、基本的には、市の施策に対する状況把握のために各団体へアンケート等を行うという趣旨であるため、名称や表現について見直しを検討したいと思います。
田中委員	社協が取り組んでいることではないということですね。
事務局 (矢部)	目標1が地域福祉の推進ということになるので、結果的に市社協が取り組んでいる活動が、この目標1の推進にリンクしてくるかと考えています。 市社協の計画の推進により、こちらの目標1が進んでいくことになると思いますが、社協の活動を1つ1つ評価していくということではないと捉えています。 そこは擦り合わせをさせていただきたいと思います。
田中委員	取組名称と書かれているところがどのレベルのものを市社協として評価するのか、どのようなものを入れるべきなのかが、もっと具体的になるとわかりやすいと思います。
事務局 (矢部)	市社協だけではなく、地域団体などにも言えると思いますので、検討させていただきます。
事務局 (内藤)	目標1(1)に含まれる①～⑤の取組は、個別に実施するよりも、本体として一体的に実施した方が、具体性が高まり目標達成に向けて効果的に進むと考えています。そこで施策体系をこのような形で揃えています。 また、市社協の各取組の細かな事業名をどのように当てはめるかについては疑問をお持ちの方がいるかもしれませんが、目標1(1)で示した方向性を束ねた形で、市の施策と一体的に取り組めるものを記載していただくのが望ましいと考えます。 表現が難しい場合は、その点について協議のうえ調整していきたいと思えます。
田中委員	実際の評価の仕方については、他の皆さんも混乱すると思います。
川上委員長	私も取組内容まで踏み込んで、膨大な量の評価を集めると思って、大変

	<p>だと思っていました。</p> <p>私の認識と大分意図が異なりますので、今日いただいた意見を踏まえてもう少し練り込んだ方がいいと思います。</p> <p>年度当初にお配りして、目標まで書いていただくことが可能なのか、基本的に間に合うのかも含めて、評価については検討させてください。</p>
鈴木委員	<p>評価に参加する立場によって、評価対象の視点が変わる点が問題です。市全体の達成度を評価するのか、各事業者（団体）としての達成度を評価するのかで、特に地域住民側の評価が分かりにくくなる可能性があります。市全体を見渡しての評価であれば問題は少ないものの、事業者や地域団体の立場で評価する場合、地域住民は括弧書きの扱いにとどまり、実態が反映されにくくなるおそれがあります。</p> <p>また、進捗の段階を「ざっくり評価する」のか「詳細に評価する」のかによっても運用が変わります。現行のチェックボックスの形式だと、市全体を俯瞰して判断する場合に、括弧内の要素をすべて想起して頭の中で集計・判断しなければならず、実務的にチェックを入れにくいと考えられます。達成と判断するには大きな判断が必要になるため、現状のままでは担当者が気軽にチェックできない恐れがあり、チェック可能にするには評価項目の細分化が必要だと考えます。これは目標1から3すべてに言えることかと思えます。</p>
事務局 (内藤)	<p>目標2と目標3については、業務への取り組みです。</p> <p>これを年度当初にお示しすることで、1年間そのような意識を持って、業務をしていただければと思っていますし、それが実際に行われてきたかということで、業務の点検をしていただきたいです。</p> <p>目標1は少し異なり、安心して暮らして活動できるまちづくりを市としては支援する中で、このような段階を踏まないとなかなか実現しないというところで、自分たちのところで気軽に来られる場や機会が作られているかという自己点検になり、それに対して市として必要な支援が行われているかというところの点検になっていくと当初考えていたところです。</p>
川上委員長	<p>評価の仕方については、詰めなければいけないところが沢山あると思います。評価参画者をどこまでにするのかも決めていかないと、町内会自治会での取組の項目も多くあります。</p> <p>今日は引き取らせていただき、再考させていただきたく思います。</p> <p>具体化したらもう一度確認をさせてください。</p> <p>それでは、次の議題の令和6年度取組状況の方に移ります。</p> <p>これについては、報告だけさせていただき、意見については後ほど意見書を通じて出していただくということで、ご了承いただければと思います。それでは、事務局の方から報告をお願いします。</p>
事務局 (内藤)	<p>みなさんにこれからご確認いただくのは、「令和6年度推進状況報告書」です。資料の5-1をご覧ください。こちらは、ここまでご議論いただいた新しい計画とは評価の考え方が異なります。</p>

まず、この進捗報告書は、令和2年度に定めた現行計画のルールに沿って作る「年次の振り返り」です。当時の取り決めでは、庁内の関係する課が自分たちの取組を自己点検し、その結果を集計して報告する様式になっています。したがって内容は、「前年度、各関係課が計画どおり事業を実施できたか」を中心に、既定の書式で整理し、それをもって目標の進展を報告するものです。

つまり、現在策定中の新しい計画では、評価のあり方を見直し、外部からの視点や質的な変化（つながり・受け皿・到達度合い）の段階評価を重視する設計に変えています。

一方、いまからご説明する前年度（R6）の取組状況については、評価方法は現行計画のルールで作成し、第三者の視点は本委員会での「講評」で担保します。

このため、考え方も表現方法も、新しい計画とR6進捗報告書では異なります。その点をご理解いただいたうえで、皆さんからのご意見を頂戴し、後日、委員長による「講評」として取りまとめ、市ホームページで公開してまいります。

なお、今年度は、次期計画の策定に多くの時間を割いているため、R6の詳細協議は本日の会議内では最小限とし、後日、意見書のご提出をお願いします。

ご確認いただきたい観点は3点です。

記載内容が、皆さんのご存じの事実と合っているか。

必要な具体例・データ・根拠が欠けていないか。

誤解されうる書きぶりがないか、より分かりやすい言い回しがないか。

の確認をしていただければと思います。

いただいたご意見は、委員長が講評として取りまとめ、公表資料に反映します。ご協力をよろしくお願いいたします。

本報告書の【位置づけ】です。

本報告書は、現行計画（令和2～7年度）にもとづく令和6年度の取組を評価・整理し、年度進捗と課題を確認するものです。

【全体の進捗概況・総括】についてです。

多くの取組が概ね順調で、成果指標ベースのA評価が高い割合を占めます。評価は「取組実施状況」を軸に、「成果指標の達成度」を参考として位置づけています。

【目標別の要点】です。総括はP3～P7にございます。

目標1（総合的な相談体制）です。小括はP11～14にございます。総合的な相談体制の入口は広がった一方、参加支援・居場所づくりへの接続の定着が課題となっています。

目標2（包括的支援体制）です。小括はP16～20にございます。孤独・孤立対策の官民連携の地域づくりプラットフォーム「ここかま」を創設するなど、制度や領域を横断する協働が進む一方、事業者間での全体像の共有や趣旨の理解、役割分担の明確化など、情報共有の仕組みが不十

分な状況となっています。

目標3（地域福祉活動・人材）です。小括は P22～25 にございます。民生委員児童委員などの担い手対策に一定の手応えがある一方、定着や量の確保、それ以外の地区社協レベルの人材の育成・確保は引き続きの課題です。

目標4（地域生活支援・権利擁護）です。小括は P27～31 にございます。地域の居住支援、虐待防止、福祉避難所の体制づくりや福祉専門職と連携した要支援者個別避難計画の作成などは前進している一方、災害時や複合課題への切れ目ない支援体制のさらなる強化が課題となっています。

目標5（情報の収集・提供）です。小括は P33～35 にございます。障害者支援アプリの導入・運用や、社会資源検索サイトの更新などに前進はみられる一方、情報の更新体制の強化と一元化が、より必要な状況です。

目標6（ケアラー支援）です。小括は P37～39 にございます。ケアラー支援条例の制定により、ケアラー支援の基盤整備は進展しています。今後は、待ち受け型に留めず、早期把握・アウトリーチ・関係機関のつなぎ先の整理を強化していく必要があります。

最後に、【次期計画との連動性を見越した、今後の方向性】です。

本報告書では、各目標の小括毎に「必要な取組の方向性」を定め、「次期計画に向けて見据えるビジョン」を示し、次期計画との連動性をイメージしております。

目標1の次期計画のビジョンとしては、福祉総合相談窓口と専門窓口の連携強化、制度の狭間に対応する庁内・関係機関連携、相談→参加→地域づくりの一体化、地域拠点のネットワーク化と伴走できる人材育成を目指します。

目標2の次期計画のビジョンとしては、制度横断で支援をつなぐ体制の整備、関係機関の役割分担と情報共有の徹底、相談で把握したニーズを地域づくりに結びつけ、官民連携で社会参加の機会を創出することを目指します。

目標3の次期計画のビジョンは、多様な組織が連携して参加機会を広げること、担い手育成と定着策の推進、専門職の確保と研修によるサービス基盤の強化にあります。

目標4の次期計画のビジョンは、居住環境やバリアフリー整備で移動と参加を支援すること、出所者等への継続支援の受け皿整備、虐待防止の情報共有体制強化、災害時の見守りと支援の確保です。

目標5の次期計画のビジョンは、個別避難計画の普及による避難支援の確保、庁内外の情報連携と発信統一化、情報基盤を通じた防災と日常福祉の一体化です。

目標6の次期計画のビジョンは、ケアラーとケアを受ける人の双方を包摂する切れ目ない支援体制の構築、行政と地域・事業者が連携する社会的基盤の醸成です。

以上が、本報告書の概要説明となります。

	<p>本報告書におけるご意見については、資料5-2の意見書をご活用いただき、メール等で2月16日(金)までにご提出いただきたく存じます。意見書を用いず、メールに直接記載いただいても構いません。何卒宜しくお願い致します。</p>
川上委員長	<p>委員には、2月16日までにご意見をお寄せいただき、それを取りまとめたうえで私の方で委員会としてのコメントを作成いたします。ご意見が十分に集まらない場合は、改めて文章を作成する必要が生じますので、可能な限り多くの方にご意見をご提出いただけますようお願いいたします。いただいたご意見は参考にしながら文章を作成してまいります。ご協力のほど、よろしくようお願いいたします。</p> <p>続いて、議事「(5) 今後の進め方」について、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
事務局 (内藤)	<p>今後の進め方です。本日のご意見を反映した計画(案)を庁内手続により確定し、年度内にHPで公表、印刷物を作成・配布します。</p> <p>並行して、今年度実施したワークショップの結果を地区向けレポートとして取りまとめ、計画の要点と今後の取組予定を、市社協と協議のうえ記載し、地区の皆さまに共有します。</p> <p>ワークショップの開催趣旨としましては、地区の具体的な課題や住民の意欲の発見をとおして、新たな住民とのつながりをつくり、各地区と行政と社協の信頼関係の構築や、今後、地域づくりにともに取り組む機運を進めていくものでした。抽象的な議論になると、解決策や当事者性が遠のくと考えため、今年度は、近い未来のまちかどで、どのような活動や会話がなされているのかを絵に描いてみることで、困りごとがどのように解消されていくとよいかについて、地区の皆さん同士がお互いのお考えを知る機会になると良いと考えました。</p> <p>今後の取組についても共催団体である市社協と協議のうえ、地区の皆様にご覧いただけるよう、努めていきます。</p>
川上委員長	<p>今ご説明していただいた形で進めていきます。</p> <p>続いて、議事の(6)その他について、事務局から何かありますか。</p>
事務局 (内藤)	<p>特にありません。</p>
川上委員長	<p>議事については以上になります。最後に、全体を通して何かご意見等がありますでしょうか。</p>
近藤委員	<p>市民として委員会に参加して感じることは、基本理念「お互いを尊重し支え合いながら共に生きるかまくら」の背景や成り立ちが分かれると、より親近感が湧くという点です。</p> <p>現状、基本理念がいきなり1ページ目に示されていますが、その前にどのようなプロセス・議論・地域の取組を経てこの理念が形成されたのかを簡潔に紹介するコラムがあるとよいと思います。</p> <p>コラムには、策定の経緯(例:関係者の議論、地域からの声、先行事例の検討など)や、理念に込めた想いを市民目線で分かりやすく示すこと</p>

	を想定しています。これにより理念が「他人事」ではなく「自分たちのこと」として受け止められ、親近感と共感が高まると思います。
事務局 (内藤)	共生条例に基づく理念ですので、共生社会の推進のところのコラムとして、冒頭に持ってくるという形になると思います。
川上委員長	そのような形で、コラムの作成をお願いします。 他にはいかがでしょうか。よろしければ、事務局の方から連絡事項をお伝えし、閉会とさせていただきます。
事務局 (内藤)	本日はありがとうございました。繰り返しになりますが、本日の議事録を、資料として市ホームページに掲載する予定です。議事録の公表前に、皆様に内容をご確認いただきますので、ご了承ください。
川上委員長	それでは、第4回地域福祉計画推進委員会を終了させていただきます。 ありがとうございました。
	—了—